

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課:道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道58号 恩納南バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自:沖縄県恩納村字南恩納 至:沖縄県恩納村字仲泊			延長	6.5km
事業概要	<p>国道58号は、沖縄本島西部を縦貫する主要幹線道路であり、沖縄自動車道、国道329号とともに「3本の柱」として、ハシゴ道路ネットワークに位置付けられている。</p> <p>恩納南バイパスは、リゾートホテルやビーチなどが集中している本県有数のリゾート地である恩納村内に位置し、交通渋滞の緩和、周辺観光施設へのアクセス向上に寄与するとともに、観光産業を支援する延長6.5kmの道路である。</p>				
H2年度事業化		H1年度都市計画決定		H5年度用地着手	
全体事業費	約417億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)	約97%	供用済延長	6.5km
計画交通量	30,300台/日				
費用 対 効 果 分析	B/C (事業全体) 2.6(3.2) 〔3.4(3.9) [2%] 〔4.0(4.4) [1%] (残事業) 9.5(12.8) 〔12.6(15.2) [2%] 〔14.7(16.5) [1%]	EIRR (事業全体) 8.7%(10.4%) (残事業) 45.2%(80.6%)	総費用 (残事業)/(事業全体) 88/ 1,719億円 〔事 業 費: 70/1,580億円 維持管理費: 18 /115億円 更 新 費: / 23億円 感 度 分 析	総便益 (残事業)/(事業全体) 838/ 4.531億円 〔走行時間短縮便益: 786 / 4,268億円 走行経費減少便益: 41 / 226億円 交通事故減少便益: 11 / 37億円 (事業全体) 交通量 B/C=1.8~3.4(±10%) 事業費 B/C=2.6~2.6(±10%) 事業期間 B/C=2.6~2.6(±20%) (残事業) 交通量 B/C=6.3~12.7(±10%) 事業費 B/C=8.8~10.3(±10%) 事業期間 B/C=9.4~9.5(±20%)	基準年 令和7年
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 現道の路線バスの利便性向上が期待される。 那覇空港(第二種空港)へのアクセス向上が見込まれる。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 那覇港(重要港湾)へのアクセス向上が見込まれる。 北部地域で生産される農林水産品(花卉)流通の利便性が向上する。 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 北部地域の中心都市(名護市)へのアクセス向上が見込まれる。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄科学技術大学院大学(OIST)へのアクセスが向上。 観光2次交通結節点である北谷ゲートウェイから万国津梁館までのアクセスが向上。 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄県緊急輸送道路ネットワーク計画における第一次緊急輸送道路に位置付けられている。 <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑦生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> NO2排出量の削減が見込まれる。 SPM排出量の削減が見込まれる。 				

関係する地方公共団体等の意見

【沖縄県知事】

一般国道58号恩納バイパス、恩納南バイパスは、沖縄ブロック新広域道路交通計画において、ハシゴ道路ネットワークを形成する主要な幹線道路であり、県内屈指のリゾート地域における渋滞緩和や交通事故削減、観光振興等に大きく寄与する重要な幹線道路と認識しております。

平成23年4月に恩納バイパス、平成30年3月に恩納南バイパスが全線暫定2車線供用されたことにより、現道区間の交通量減少等の整備効果が発現されているものの、交通量は依然として増加傾向であり、更なる観光需要等の高まりに対応することなどから、県としても早期の全線供用は急務と考えております。

以上により、対応方針(原案)に異存ありません。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年4月29日に恩納バイパスが全線暫定供用(延長5.1km)。平成30年3月8日に恩納南バイパスが全線暫定供用(延長6.5km)。
- ・科学技術の振興を目的とした沖縄科学技術大学院大学が開学(H24.9)している。
- ・恩納村は県内有数のリゾート地であり、周辺地域のホテルや各種観光施設の整備も進んでおり、宿泊者数においても依然として増加傾向にある。
- ・恩納バイパス、恩納南バイパスの暫定開通により、現道国道58号の混雑は緩和されているが、年々交通量は増加している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成2年度に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約97%(令和7年3月末時点)。
- ・平成10年度:恩納村字仲泊付近 延長0.4km 部分供用
- ・平成21年度:恩納村谷茶～恩納村仲泊間 延長4.1km(2/4)部分供用
- ・平成30年度:恩納村字南恩納～恩納村字谷茶 延長2.0km (2/4)部分供用

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成30年3月8日に暫定2車線で開通し、一定の効果も発揮されている。今後は4車線化に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・中央分離帯の植栽の設置計画の見直しにより、コスト縮減に取り組む。

対応方針	事業継続
------	------

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、沖縄県恩納村字瀬良垣～沖縄県恩納村字仲泊を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。